

8. 自主防災組織をつくろう！

災害が起きたとき、防災関係機関は被害を最小限にとどめるために全力で取り組みます。けれども大きな災害では、道路の寸断・停電・断水・火災など、さまざまな災害が広い範囲で起きるため、公的な救助活動には限界があります。

このようなときには、隣近所の人やボランティアが団結して、助け合うことが必要です。日頃から地域の人々との交流を深め災害に強い町づくりをめざしましょう。



自主防災組織

大規模な災害によって、町や消防署、消防団等の力だけでは十分な防災活動ができないようなとき、最も頼りになるのが住民自身がつくる防災のための組織（自主防災組織）です。

町内会や自治会の集まりなどを利用して、いざだから住民同士の防災意識を高め、地域の防災力を高めておきましょう。

平常時の活動

- 地域住民の防災意識を高め、正しい防災知識の普及を図る。
- 災害時に注意しなければならない地域に固有の事情を確認しておく。
- 各家庭における防災のための安全点検や整備を行う。
- 消火活動や救助・救護活動用の防災用機材を整備・点検する。
- 防災訓練を実施し、必要な知識や技術を習得する。



災害時の活動

- 災害情報の収集や避難命令の伝達など、広報活動を行う。
- 出火防止や初期消火活動を行う。
- 地域住民の避難誘導を行う。
- 負傷者の救出や救護活動を行う。
- 水・食料などの配分、炊き出しなどの給食活動を行う。

